

松竹株式会社

代表取締役社長 迫本 淳一



平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

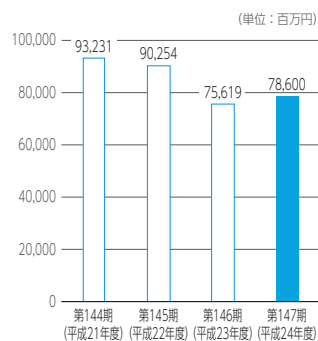
さて、当社は第147期（平成24年3月1日から平成25年2月28日まで）の事業活動を終了いたしましたので、業績並びに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

なお、当期の期末配当につきましては、1株当たり3円とさせていただきます。

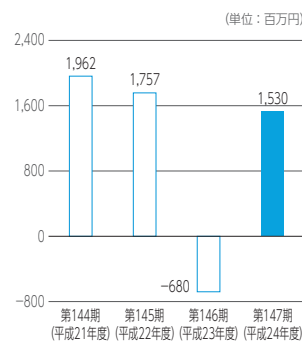
株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

連結決算ハイライト

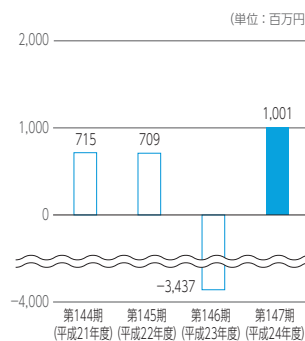
売上高



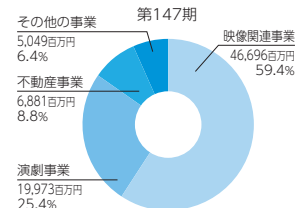
経常利益



当期純利益



事業別売上高



当連結会計年度におけるわが国の経済は、震災復興需要や政府による経済対策等を背景に緩やかな回復基調が見られたものの、企業収益・雇用情勢は依然として厳しく、世界経済は欧州の財政問題の継続に加えて、新興国経済停滞等の景気下振れの懸念材料を残したまま推移しました。また、終盤には円安傾向や株式市場の好調な推移が見られましたが、先行き不透明かつ予断を許さない状況のまま推移しました。

映画業界は、興行収入1,951億9,000万円（前年比107.7%）、入場人員1億5,515万9千人（前年比107.2%）となりました。邦画・洋画の構成比は邦画が65.7%、洋画が34.3%と、邦画が大きく上回り、洋画は2000年以降最も低い成績となりました。また、デジタル化については、全国3,290スクリーン中、2,897スクリーン、全体の88.1%にデジタル設備が導入され、その内1,042スクリーンで3D上映が可能となりました。

演劇業界は東急シアターオーブのオープン、名古屋・御園座の建替えにともなうさよなら公演等の話題があったものの、ル テアトル銀座が閉館を決定する等、演劇興行は厳しい環境が続きました。

不動産業界は、一部では不動産投資市場の回復があり、地価下落は底を打ったかに見えますが、オフィス賃貸に関しては、賃料の低迷、フリーレントの長期化や空室率の高止まり等、業界の不振が続きました。

このような状況下、当社グループはより一層の経営の効率化を図るとともに、積極的な営業活動を展開しました。以上の結果、当連結会計年度は、売上高78,600百万円（前連結会計年度比103.9%）、営業利益3,067百万円（同350.8%）、経常利益1,530百万円（前連結会計年度は経常損失680百万円）となり、特別利益53百万円、特別損失234百万円を計上し、当期純利益は1,001百万円（前連結会計年度は当期純損失3,437百万円）となりました。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

映像関連事業

【配給】邦画8本、洋画4本、アニメ7本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとバラエティに富んだ作品を公開しました。上期は、期首に公開した「おかえり、はやぶさ」が厳しい結果となりましたが、ゴールデンウィークに公開した「わが母の記」は日本アカデミー賞にノミネートされる等評価も高く、収益に貢献しました。下期には、期待作品が苦戦したものの、「映画 ひみつのアッコちゃん」「劇場版 TIGER & BUNNY - The Beginning -」「エクスペンダブルズ2」「黄金を抱いて翔べ」「東京家族」等が健闘しました。

【興行】連結子会社の㈱松竹マルチプレックスシアターズにおきましては、邦画、洋画を合わせて311本の作品を上映いたしました。邦画、洋画をはじめ、ライブビューイングやイベント上映等、幅広いラインナップの興行を行いました。

【テレビ制作】「赤かぶ検事奮戦記4」「天才刑事 野呂盆六Ⅶ」「剣客商売～御老中暗殺～」 「必殺仕事人2013」「鬼平犯科帳 スペシャル～泥鰌の和助始末～」、NHK BS連続時代劇・市川染五郎主演「妻は、くノ一」等、10作品14本を受注制作いたしました。テレビ映画の二次利用販売はBS局、CS局を中心に順調に推移し、「鬼平犯科帳」シリーズの海外での販売を開始しました。

【映像版權】<<DVD・ブルーレイディスク販売>>「スーパーチューズデー 正義を売った日」「RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ」「わが心の歌舞伎座」「天地明察」等の劇場公開作品を発売しました。8月には木下恵介生誕100年プロジェクトの一環としてDVDボックスセット「『二十四の瞳』と木下恵介の世界」等を発売しました。

<<放映権販売等>>「釣りバカ日誌」シリーズ3作品、「男はつらいよ 寅次郎真実一路」が地上波のゴールデンタイムに放送され、また、NHK BSでの放送に合わせ「カルメン故郷に帰る」デジタルリマスター版、WOWOWでの放送に合わせ「男はつらいよ」



「わが母の記」
©2012「わが母の記」製作委員会



「東京家族」
©2013「東京家族」製作委員会



平成24年6・7月 新橋演舞場
「ヤマトタケル」
©松竹株式会社

全作品を販売しました。配信許諾では、日本映画の各賞を受賞した「八日目の蟬」の配信が好成績を収めました。また、通常の配信モデル以外に、新旧の当社作品については、鑑賞している視聴者からリアルタイムに投稿を寄せていただく等、新しい視聴スタイルの提供も積極的に実施しました。この他、当社映画作品の映像を使用した、「ザ・プレミアム・モルツ」（木下恵介監督作品）「伊右衛門」（小津安二郎監督『お茶漬の味』）、リチャード・ギアが寅さん風のキャラクターに扮した「オレンジーナ」の各CMについて権利許諾を行いました。海外では、カンヌ国際映画祭、ベネチア国際映画祭、ベルリン国際映画祭にて「楢山節考」ほか、木下恵介監督7作品が上映されました。

【CS放送】連結子会社の㈱衛星劇場では、CS・BS混在の多チャンネル競争激化の時代を迎えて、ハイビジョン化の推進や聴覚障がい者向け字幕比率の向上等の視聴者サービス向上に努めると共に、歌舞伎、邦画、洋画、海外ドラマと、多彩な番組編成を行ったことにより、収益も堅調に推移しました。

演劇事業

【新橋演舞場】歌舞伎座建替期間の最後の一年となり、大歌舞伎・花形歌舞伎を織り交ぜた話題の興行を行い、歌舞伎座にかわる歌舞伎の本拠地として、毎月充実した舞台を繰り広げました。中でも、昨夏の二代目市川猿翁・四代目市川猿之助・九代目市川中車の襲名披露興行は大きな話題となり、2ヶ月にわたって好成績を収めました。

【大阪松竹座】襲名披露興行を7月の三代目中村又五郎、9月の六代目中村勘九郎、1月の二代目市川猿翁・四代目市川猿之助・九代目市川中車と相次いで行い、収益に貢献しました。また、関西ジャニーズJr.公演を、恒例の夏・冬に加えて春休みにも上演いたしました。

【南座】フランス芸術文化勲章最高章・コマンドゥールを受章した坂東玉三郎主演の5・6月公演と、並行して2ヶ月連続で開催した展覧会「歌舞伎ミュージアム『玉三郎“美”の世界展』」の組み合わせが好成績を収めました。また、8月から10月にかけては監督生活50周年を記念した「山田洋次の軌跡」を開催し、映画と演劇のコラボレーションが当社の持ち味を活かした企画として話題を呼びました。

【その他の公演】日生劇場では4・5月「滝沢歌舞伎」、9月「少年たち〜格子無き牢獄〜」が安定した収益を上げ、10月「ジェーン・エア」の再演や12月の坂東玉三郎主演「日本橋」も好成績を収めました。江戸の芝居小屋の雰囲気伝える隅田公園内の「平成中村座」は、5月末までの6ヶ月にわたるロングラン公演が賑わいを呈しました。シアターコクーンでは、コクーン歌舞伎の新作「天日坊」の上演、浅草公会堂では、市川海老蔵を中心に新春公演を行い好評を得ました。

【巡業公演】一昨年は震災の影響で中止となり、2年ぶりの公演となった7月の公文協東コース・中央コースをはじめ、公文協西コースや秋季巡業も各地で好評を博しました。また4月には「第二十八回四国ごんぴら歌舞伎大芝居」を上演いたしました。

【受託製作】博多座での「博多座六月大歌舞伎」および2月の六代目中村勘九郎襲名披露興行、御園座での「六月大歌舞伎」、10月の六代目中村勘九郎襲名披露興行および5月の坂東玉三郎主演「ふるあめりかに袖はめらさじ」、7月のまつもと市民芸術館での新作「天日坊」等の受託製作を行いました。

【シネマ歌舞伎・METライブビューイング】《シネマ歌舞伎・シネマ落語》シネマ歌舞伎は、坂東玉三郎・三部作の掉尾を飾る「高野聖」に始まり、秋には坂東玉三郎・中村勘三郎による「籠釣瓶花街酔醒」を全国上映し、大好評を博しました。シネマ落語は、一周忌を迎えた立川談志の「映画・立川談志」を上映し、落語ファンの共感を得ました。

《METライブビューイング》2011-12シーズン後半の「マノン」「椿姫」等4作品、そして2012-13シーズン10作品の内「愛の妙薬」「仮面舞踏会」「アイダ」等8作品を上映し、安定した収益確保に貢献しました。

不動産事業

不動産賃貸は、厳しい業界市況の中、東劇ビル、新宿松竹会館、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビルの稼働が順調に推移し、安定収入に貢献しました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、計画通りの利益を確保しました。尚、一部のテナントからは、厳しい賃料減額要求や移転告知を受け、交渉の継続と新たなテナント誘致に努めております。

歌舞伎座タワーにつきましては、大震災を挟んだ厳しい工事日程となりましたが、計画通り2月末に完成いたしました。

その他の事業

《プログラム・キャラクター商品》「シャーロック・ホームズ シャドウゲーム」「ダークナイト ライジング」「バイオハザードV リトリビューション」「るろうに剣心」「黄金を抱いて翔べ」等、大作・話題作のプログラムの売上が好調に推移しました。また、アニメ作品等では「劇場版 TIGER & BUNNY-The Beginning -」「宇宙戦艦ヤマト2199 第三章・第四章」「機動戦士ガンダムUC episode5」等が、プログラムのほかキャラクター商品の収益にも貢献しました。

《イベント事業》「わが心の歌舞伎座展」「モンスター研究所」等のイベントにて成果をあげました。また7月に「松竹歌舞伎屋本舗」との連動で行った物販イベント「歌舞伎屋本舗職人展 其の二」や様々な洋画グッズを取り揃えた「銀幕本舗」を開催しました。



平成24年6月 シアターコクーン「天日坊」
©松竹株式会社



平成24年12月 日生劇場「日本橋」
©松竹株式会社



GINZA KABUKIZA
©松竹株式会社、株式会社歌舞伎座

対処すべき課題

今後のわが国の経済は、欧州の財政問題の継続や新興国経済停滞等による海外景気の下振れ、さらには近隣諸国との摩擦の影響により景気が下押しされるリスクが存在しております。為替市場や株式市場の推移、政府による経済対策の効果等も、見通しは不透明な状況です。

当社グループは、コンプライアンス経営の強化に取り組み、社会情勢に対応しつつ、企業価値を高め、幅広い世代のお客様に喜んでいただける映像・演劇コンテンツを創造して参ります。

《映像関連事業》映画製作・配給につきましては、企画の調達・選別力を強化するとともに、優れたパートナーとの継続的な企画開発等に注力するほか、「関西ジャニーズJr.の京都太秦行進曲！」等、新たな才能の発掘を目的とした低予算のチャレンジ企画の試みにも着手しております。時代のニーズをとらえた作品の提供に努めながら、一本一本丁寧な営業・宣伝・販売活動に邁進して参ります。主な作品では、木下恵介生誕100年プロジェクトの締めくくりに作品となる「はじまりのみち」、終戦当時、マッカーサー元帥と日本人の対峙を描いた歴史大作「終戦のエンペラー」等の公開を予定しております。

映画興行につきましては、連結子会社の株式会社松竹マルチプレックスシアターズにおいて、より一層の収益力強化に向けて経費削減と効率的運営に努めます。また、次期販売システムの導入を進め、お客様の利便性向上を図り、お客様の期待に沿うシネコンを目指して、今後ともサービスの拡充に努めて参ります。

海外では、映画産業の成長が見込まれるアジア地域において、映画ビジネスの足がかりを築くべく取り組んでおります。

《演劇事業》4月新開場の歌舞伎座は、4月から6月にかけての3ヶ月間の三部制興行を皮切りに、1年間にわたる柿屋落興行を行います。古典による大歌舞伎のみならず、新作や花形歌舞伎にも挑戦いたします。また、歌舞伎座タワーの5階には「歌舞伎座ギャラリー」を開設し、各種テーマの企画展や若手俳優の実演等に



「終戦のエンペラー」
©Fellers Film LLC 2012 ALL RIGHTS RESERVED

より、歌舞伎を中心とした日本の伝統文化の魅力を幅広い層に向けて発信いたします。

新橋演舞場は一般演劇のメイン劇場として、4・5月には「滝沢演舞城2013」、8月には藤山直美主演「さくら橋」等の公演を行います。幅広い観客層を取り込む企画・製作力と新規団体開拓等の販売力を一層強化いたします。

シネマ歌舞伎では、「月イチ歌舞伎」と銘打ち、シネマ歌舞伎のアンコール上映を全国にて行います。METライブビューイングは、例年通り秋口から2013-14シーズン10作品の上映を予定しております。

歌舞伎におきましては、市川團十郎、中村勘三郎の相次ぐ逝去に伴い、興行・製作両面における影響はございますが、今後の世代交代も考慮しつつ、新たな話題公演の企画・製作を行って参ります。

《不動産事業》オフィス賃貸の低迷、個人消費の伸び悩みによる店舗業績の低調の中、各テナントとの賃料交渉が続くこととなりますが、業界の動向に関する広範かつ的確な情報入手に一層注力し、テナント戦略を創意工夫しつつ、築地松竹ビルテナントの移転に伴うテナントリーシングを進めて参ります。

また、各ビルの保全管理に注力し、防災体制、セキュリティ向上、快適な環境作りおよび省エネに努めるとともに、安定的な収入確保のために、より一層の経費削減と効率的運営に努めます。

《その他の事業》プログラム・キャラクター商品では、大作の他、「劇場版 TIGER & BUNNY-The Rising-」「劇場版 銀魂 完結篇 万事屋よ永遠なれ」「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章・第七章」等のアニメ作品において、コア層の購買意欲を強く喚起する商品開発に努めます。また平成23年にオープンし、好調な成績をあげている東京駅八重洲地下街・歌舞伎関連商品販売店舗「松竹歌舞伎屋本舗」は、歌舞伎座新開場に併い新商品を開発し、多店舗展開も視野に入れた事業の拡大を図って参ります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



歌舞伎座ギャラリー
©松竹株式会社

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	平成25年2月28日現在	平成24年2月29日現在
資産の部		
流動資産	44,648	30,487
固定資産	158,375	141,424
有形固定資産	117,168	103,368
無形固定資産	2,606	1,701
投資その他の資産	38,600	36,353
繰延資産	2	22
資産合計	203,026	171,934
負債の部		
流動負債	54,145	29,677
固定負債	82,641	77,969
負債合計	136,786	107,647
純資産の部		
株主資本	64,127	63,563
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,066	30,066
利益剰余金	2,330	1,749
自己株式	△ 1,288	△ 1,270
その他の包括利益累計額	2,073	651
その他有価証券評価差額金	2,073	651
少数株主持分	39	71
純資産合計	66,240	64,286
負債・純資産合計	203,026	171,934

■ 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当 期 自 平成24年3月 1日 至 平成25年2月28日	株主資本					その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
平成24年3月1日 残高	33,018	30,066	1,749	△1,270	63,563	651	651	71	64,286
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△414		△414				△414
当期純利益			1,001		1,001				1,001
持分法の適用範囲の変動			△5		△5				△5
自己株式の取得				△18	△18				△18
自己株式の処分		0		0	0				0
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減				△0	△0				△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						1,422	1,422	△32	1,389
連結会計年度中の変動額合計		0	581	△18	563	1,422	1,422	△32	1,953
平成25年2月28日 残高	33,018	30,066	2,330	△1,288	64,127	2,073	2,073	39	66,240

■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	自 平成24年3月 1日 至 平成25年2月28日	自 平成23年3月 1日 至 平成24年2月29日
売上高	78,600	75,619
売上原価	45,808	44,063
売上総利益	32,792	31,555
販売費及び一般管理費	29,724	30,681
営業利益	3,067	874
営業外収益	425	493
営業外費用	1,962	2,048
経常利益又は損失(△)	1,530	△ 680
特別利益	53	406
特別損失	234	3,191
税金等調整前当期純利益又は損失(△)	1,349	△ 3,464
法人税、住民税及び事業税	292	320
法人税等調整額	86	△ 550
法人税等合計	379	△ 229
少数株主損益調整前当期純利益又は損失(△)	970	△ 3,234
少数株主利益又は損失(△)	△ 31	203
当期純利益又は損失(△)	1,001	△ 3,437

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	自 平成24年3月 1日 至 平成25年2月28日	自 平成23年3月 1日 至 平成24年2月29日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,939	312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 21,050	△ 8,795
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,772	4,051
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,661	△ 4,431
現金及び現金同等物の期首残高	11,519	15,989
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△ 39
現金及び現金同等物の期末残高	20,181	11,519

個別財務諸表

■ 貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末	前期末
	平成25年2月28日現在	平成24年2月29日現在
資産の部		
流動資産	23,552	16,040
固定資産	103,392	100,992
有形固定資産	51,402	50,527
無形固定資産	2,980	1,161
投資その他の資産	49,009	49,303
繰延資産	2	22
資産合計	126,947	117,055
負債の部		
流動負債	16,964	22,231
固定負債	41,574	27,932
負債合計	58,539	50,164
純資産の部		
株主資本	66,308	66,140
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	29,929	29,929
利益剰余金	4,185	3,999
自己株式	△ 825	△ 807
評価・換算差額等	2,100	750
その他有価証券評価差額金	2,100	750
純資産合計	68,408	66,890
負債・純資産合計	126,947	117,055

■ 株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当 期 自 平成24年3月 1日 至 平成25年2月28日	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等		純資産合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計			その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成24年3月1日 残高	33,018	27,935	1,993	29,929	3,803	196	3,999	△807	66,140	750	750	66,890
事業年度中の変動額												
固定資産圧縮積立金の取崩					△41	41	—		—			—
剰余金の配当						△414	△414		△414			△414
当期純利益						600	600		600			600
自己株式の取得								△18	△18			△18
自己株式の処分			0	0				0	0			0
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)										1,350	1,350	1,350
事業年度中の変動額合計		—	0	0	△41	227	185	△17	167	1,350	1,350	1,517
平成25年2月28日 残高	33,018	27,935	1,993	29,929	3,761	424	4,185	△825	66,308	2,100	2,100	68,408

歴史的な新開場 —歌舞伎座 柿葺落興行初日—

本年、平成二十五年二月二十六日に目出度く竣工した第五期歌舞伎座は、三月二十七日午前中の「銀座 春のパレード」を皮切りに、二十七、二十八日の二日間にわたる「歌舞伎座開場式」「歌舞伎座新開場 古式顔寄せ手打式」という一連の開場式典を大盛況裡に展開した後、四月二日、待望の新開場の日を迎えました。雨模様の初日となりましたが、芝居の世界において雨天は「お客様が降り込んでくる」ので縁起がいいと言われています。

小雨の中厳かに、歌舞伎稲荷での成功祈願祭、正面玄関前での「一番太鼓の儀」が肅々と執り行われ、いよいよ十時三十分の開場時間、歌舞伎座は約三年ぶりにその門扉を開きました。



第一部 序開「鶴寿千歳」
©松竹株式会社

お客様が何より楽しみにされてきた、歌舞伎座の舞台。第一部から各部とも本席は満席で、当日販売的一幕見席には午前三時から並んで下さったお客様もあり、最初的一幕見席は午前八時半には全席札止め（売切れ）となりました。その後的一幕見席も順次札止めという活況ぶり。エレベーターを利用したの入場は楽になったという声も頂きました。常連のお客様に加えて、外国人のお客様、初めて歌舞伎座に来られた若いお客様も多数おいでになりました。

ご観劇後のお客様の熱気と興奮、感慨深げなご様子は、この日、朝から詰め掛けた報道陣によってすでに新聞、テレビで報じられた通り。世紀の一大イベントとなった歴史的な新開場を、ご来場の皆様をはじめ、歌舞伎と歌舞伎座を支えて下さる大勢の皆様と御一緒に祝った、感無量の日となりました。

この四月二日の初日を皮切りに、一年にわたる柿葺落興行がスタートし、“これぞ歌舞伎”という名舞台が上演されています。四月、五月、六月興行までの三カ月を三部制にてご堪能頂き、七月、八月、九月は若手花形を中心とした興行を行って参ります。更に秋から翌年にかけても豪華な興行を予定しております。



玄関前で行われた「一番太鼓の儀」
©松竹株式会社



新作映画情報



©2013 『はじまりのみち』 製作委員会

『はじまりのみち』

加瀬亮 田中裕子 濱田岳 ユースケ・サンタマリア
 斉木しげる 光石研 濱田マリ 山下リオ 藤村聖子
 松岡茉優 相良樹 大杉漣
 ナレーション：宮崎あおい
 監督・脚本：原恵一
 制作プロダクション：松竹撮影所 東京スタジオ

『二十四の瞳』、『喜びも悲しみも幾歳月』、『楢山節考』など数々のヒット作を生み出し、盟友・黒澤明監督とともに、国民の人気と評価を二分した映画監督・木下恵介。生誕100年を機に、カンヌ、ヴェネチア、ベルリンの世界三大映画祭で相次いで木下作品が上映され、今、再び世界中が注目しています。差別や暴力、戦争を憎み、人間の醜さや美しさ、強さと弱さをありのまま肯定し、深い愛情をもって見つめ続けた木下の原点とは何だったのか——。映画『はじまりのみち』は、木下の運命を変えた感動の実話を元に、母を想う息子と、愛する息子を信じ続けた母の真実を描きます。

監督は、『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ！オトナ帝国の逆襲』や『河童のクウと夏休み』など多くのアニメーションを手掛け、国内外で高い評価を得ている原恵一。木下を敬愛し、熱烈なファンであることでも知られる原の、初めての実写映画監督作品となります。

出演は、木下恵介役に加瀬亮。母・たま役に田中裕子。そして恵介の兄・敏三役にはユースケ・サンタマリア、便利屋は濱田岳という日本映画界屈指の実力俳優が集結。更に斉木しげる、光石研、濱田マリ、大杉漣ら個性あふれるキャストに加え、宮崎あおいがナレーションを担当したことも話題です。

映画『はじまりのみち』は、2013年6月1日（土）公開です。

1945年8月30日、終戦直後の日本にダグラス・マッカーサー元帥率いるGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）が上陸。マッカーサーは部下のボナー・フェラーズ准将に、ある極秘調査を命じる。この戦争の真の意味での責任者は、いったい誰なのか？すべてを失った日本の新たな礎は、いかにして築かれたのか？日本の運命を決定づけた知られざる物語が、本作で描かれています。

マッカーサー元帥を演じるのは、『メン・イン・ブラック』シリーズで知られるアカデミー賞俳優トミー・リー・ジョーンズ。フェラーズ准将には、人気海外ドラマシリーズ『LOST』のマシュー・フォックス。そして西田敏行、中村雅俊、桃井かおりら、豪華日本人俳優陣が共演。また、『ノルウェイの森』の初音映莉子が、物語の鍵を握る女性に大抜擢されています。

監督は、『真珠の耳飾りの少女』のピーター・ウェーバー。日本人女性プロデューサー・奈良橋陽子（『SAYURI』『パベル』『ラスト サムライ』キャスト）と野村祐人・親子がハリウッドとともに世界に贈る、歴史サスペンス超大作が誕生しました。ぜひ、ご期待ください。

映画『終戦のエンペラー』は、2013年7月27日（土）公開です。



©Fellers Film LLC 2012 ALL RIGHTS RESERVED

『終戦のエンペラー』

マシュー・フォックス トミー・リー・ジョーンズ 初音映莉子
 西田敏行 羽田昌義 火野正平 中村雅俊 夏八木勲
 桃井かおり 伊武雅刀 片岡孝太郎
 監督：ピーター・ウェーバー
 脚本：デヴィット・クラス ヴェラ・ブラシ
 製作：奈良橋陽子 ゲイリー・フォスター 野村祐人
 ラス・クラスノフ
 原作：岡本嗣郎「陛下をお救いなさいまし」（集英社刊）

会社の概要

商号 松竹株式会社
 設立 大正9年11月
 資本金 33,018,656,642円
 従業員数 532名

本社、支社および営業所

本社 東京都中央区築地四丁目1番1号
 電話 03-5550-1533 (総務課)
 関西支社 (大阪)
 九州営業所 (福岡)

当社ホームページ

<http://www.shochiku.co.jp/>

役員

代表取締役会長	大谷 信義
代表取締役社長	迫本 淳一
専務取締役	安孫子 正人
専務取締役	細田 光厚
常務取締役	中島 雅人
常務取締役	武中 清文
取締役相談役	上條 良樹
取締役	井手 正也
取締役	大角 哲一
取締役	岡崎 孝
常勤監査役	岡田 敏弘
監査役	中川 勝晴
監査役	鈴木 茂
監査役	牛島 信

グループ会社一覧

連結子会社

- ・松竹衣裳 (株)：舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・(株)松竹サービスネットワーク：映画関連グッズの販売、各種イベントの企画製作および運営、不動産管理・清掃、フラワー事業、損害保険の代理、警備、旅行者代理業
- ・松竹関西サービス (株)：不動産管理・清掃
- ・(株)ショウビズスタジオ：舞台、映画、テレビ、ラジオの番組企画・製作並びに音響効果の企画・製作・再生
- ・松竹芸能 (株)：タレント・俳優の養成並びにマネージメント、演劇・テレビドラマ・イベントの企画・製作
- ・(株)衛星劇場：CS・CATV放送、ソフト製作・編集【衛星劇場・ホームドラマチャンネル】
- ・(株)松竹撮影所：劇場用映画・テレビ映画の製作、短編・CM映画の製作並びに請負
- ・(株)松竹映像センター：映像制作、編集およびDVDオーサリング
- ・(株)松竹マルチプレックスシアターズ：複合映画館 (シネマコンプレックス) の開発・運営
- ・松竹音楽出版 (株)：映画音楽の制作並びに音楽著作権の管理
- ・歌舞伎座舞台 (株)：演劇舞台の大道具製作・販売
- ・(株)関西美術：演劇舞台の小道具製作・賃貸
- ・日本演劇衣裳 (株)：舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・(株)松竹エンタテインメント：俳優・芸能タレント・音楽家・スポーツ選手・アーティストの育成並びにマネージメント
- ・匿名組合築地ビルキャピタル：築地松竹ビルの賃貸および管理
- ・KSビルキャピタル特定目的会社：歌舞伎座タワーの賃貸および管理
- 持分法適用会社
 - ・(株)サンシャイン劇場：サンシャイン劇場の賃貸、演劇・映画の興行他
 - ・(株)イヤホンガイド：演劇劇場内イヤホンガイドサービス
 - ・(株)歌舞伎座：歌舞伎座その他事務所・店舗の賃貸
 - ・新橋演舞場 (株)：新橋演舞場その他の事務所・店舗の賃貸
 - ・インターローカルメディア(株)：放送法による委託放送業務およびその他の放送一般事業

株式の状況

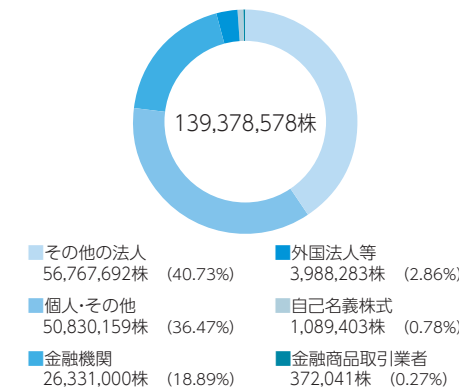
発行可能株式総数 300,000,000株
 発行済株式の総数 139,378,578株 (自己株式1,089,403株を含んでおります。)
 株主数 17,646名 (前事業年度末比1,960名減)
 (注) 前事業年度末比減の1,960名には、所在不明株主の株式売却による1,344名が含まれております。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
株式会社歌舞伎座	4,802千株	3.47%
株式会社みずほコーポレート銀行	4,500千株	3.25%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,344千株	3.14%
セコム株式会社	3,700千株	2.68%
三井物産株式会社	3,700千株	2.68%
清水建設株式会社	3,690千株	2.67%
株式会社大林組	3,600千株	2.60%
西松建設株式会社	3,288千株	2.38%
大成建設株式会社	3,104千株	2.24%
株式会社TBSテレビ	2,542千株	1.84%

(注) 持株比率は自己株式(1,089,403株)を控除して計算しております。

[所有者別株式分布表]



株主優待基準

【株主優待権利確定日および優待期間】

権利確定日	優待期間
毎年2月末日	毎年6月～同年11月
毎年8月末日	毎年12月～翌年5月

※6ヶ月ごとに株主様へ優待内容通知をご送付いたします。

【映画優待 ポイント付与基準】

保有株式数	6ヶ月優待ポイント数 (1ヶ月使用可能ポイント数)	
1,000株以上	80ポイント	(40ポイント)
2,000株以上	160ポイント	(60ポイント)
3,000株以上	200ポイント	(80ポイント)
5,000株以上	280ポイント	(100ポイント)
8,000株以上	400ポイント	(120ポイント)
10,000株以上	480ポイント	(140ポイント)

【演劇優待 枚数基準】

保有株式数	6ヶ月優待枚数
3,000株以上	2枚
5,000株以上	4枚
8,000株以上	6枚
10,000株以上	8枚
15,000株以上	12枚
20,000株以上	16枚

※「6ヶ月優待ポイント数」とは、優待権利期間の6ヶ月の間に使用できるポイント総数です。そのポイント総数の内、1ヶ月に使用できる上限のポイント数を示しているのが、「1ヶ月使用可能ポイント数」です。
 ※1名様につき、10ポイントが必要となります。なお、「新宿ピカデリー」のみ1名様20ポイントが必要となります。
 新宿ピカデリーは公開の2週目(8日目)以降から利用可能です。「プラチナシート」「プラチナルーム」はご利用になれません。
 ※3D映画は、1名様につき15ポイント(通常10ポイントの1.5倍)で、ご観賞可能となります(「新宿ピカデリー」のみ30ポイント)。

株主メモ

事業年度 3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 毎年5月下旬
株主確定基準日 定時株主総会 2月末日
期末配当 2月末日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

単元株式数 1,000株
公告掲載URL <http://www.shochiku.co.jp/company/ir/>
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって公告いたします。)

【お知らせ】

1.ご注意

- (1) 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 配当金の口座振込のご指定手続きにつきましては、配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなります。振込指定のお手続きにつきましては各口座管理機関にお問い合わせください。
- (4) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2.配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

●1単元（1,000株）未満の株式をお持ちの株主様へ 【買増・買取制度のご案内】

当社株式の証券市場での取引は1単元＝1,000株となっているため、単元未満株式を市場で売買することはできません。このため、当社では、1単元（1,000株）に不足する株式を買い増して、1,000株にまとめることができる「単元未満株式の買増制度」、1,000株に満たない株式を当社へ売却することができる「単元未満株式の買取制度」をご用意しております。

お手続きの方法

- ①当社株式を証券会社等の口座でお持ちの株主様
お取引の証券会社等へお問い合わせください。
- ②上記以外、特別口座でお持ちの株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) へお問い合わせください。

●特別口座で株式をお持ちの株主様へ

特別口座に記録されている株式は、株式市場で売買できません。株式市場で売買するためには、証券会社等に口座を開設し、特別口座から証券会社等の口座へ株式をお振り替えいただく必要がございます。
お手続きは、上記の三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

